

教養科目 シラバス

100006			
科目名	日本国憲法	年次配当	1年次
担当者	岩井 和由	開講時期	前期
所属	生活学科 情報・経営専攻	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修 栄養教諭免許資格必修 幼稚園教諭免許資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	20名

授業概要

日本国憲法の位置づけと憲法の持つ意味を理解することを目指す。知識の羅列ではなくなぜそのような事項が規定されるに至ったかということを理解することを目指すし、主権者としての国民の位置づけを明らかにする。

到達目標

国民主権下の主権者たり得る基礎知識を習得する。人権がなぜ制定されるに至ったかを理解する。

教材

教科書(テキスト)

要説 憲法講義 (フクロウ出版)

テキスト以外

判例・新聞記事など適宜配布

評価方法

定期試験100%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

憲法はあなたの方にとって本来もっとも密接な法律です。憲法の理解を身につけることは主権者としての国民にとって何よりも大切なことです。憲法の目的は人を人として大切にすることを学ぶことでもあります。憲法を理解することは何より人に対する差別や偏見をなくします。ぜひ教科書を一読の上受講してください。

授業計画

- 1 憲法の歴史と憲法の意味
- 2 日本国憲法の基本原則
- 3 国民主権と天皇制
- 4 平和主義
- 5 基本的人権—人権創設
- 6 基本的人権—包括的基本権
- 7 基本的人権—精神的自由権
- 8 基本的人権—経済的自由権
- 9 基本的人権—刑事手続
- 10 統治機構—国会
- 11 統治機構—内閣
- 12 統治機構—裁判所
- 13 統治機構—財政
- 14 統治機構—地方自治
- 15 憲法全体のまとめ

教養科目 シラバス

100001			
科目名	人権論	年次配当	1年次
担当者	荒益 正信	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

人権の概念、進化してきた人権保障、実生活上のさまざまな人権侵害と人権救済、制度化された人権教育について、身近な人権判例・人権問題を取り上げながら解説し、考える力を養う。受講生全員に最近の人権問題、人権侵害事件についてのレポート（発表）を課し、討議を行う。

到達目標

人間生活のさまざまな場面で人権（権利）の保障が求められる。それは、普遍的な人権を保障する法や社会制度を構築していくことであり、人権の法規範性ととも社会規範性の両面からの取組が不可欠であることを具体的な事例を通して理解し、最近の人権問題について自分で考えることができる。

教材

教科書(テキスト)  
特定なものはない

テキスト以外  
プリント、新聞・雑誌記事、論文等必要に応じて準備、指示、推薦する。

評価方法

定期試験60%、レポート30%、授業態度10%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

新聞等に目を通し、社会の出来事を人権の視点から捉えることに努めてほしい。評価は厳格に行いますので、授業を欠席することがないようにしてください。

授業計画

- 1 人権ってなに①
- 2 人権ってなに②
- 3 人権観の転換
- 4 人権の国際化
- 5 新しい人権－知る権利
- 6 新しい人権－自己決定権
- 7 新しい人権－プライバシーの権利①
- 8 新しい人権－プライバシーの権利②
- 9 基本的人権のいま①
- 10 基本的人権のいま②
- 11 人権救済
- 12 人権教育の制度化
- 13 レポート発表と討議①
- 14 レポート発表と討議②
- 15 レポート発表と討議③・まとめ

教養科目 シラバス

100048			
科目名	労働と人生	年次配当	1年次
担当者	山田 修平	開講時期	後期
所属	学長	資格選択区分	上級情報処理士資格選択必修 情報処理士資格選択必修 ビジネス実務士資格選択必修(住デ) 商業施設士補資格選択必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	3-4名

授業概要

身近な大学の収支、その中の学費から解きほぐしながら、働くことの意味を考える。続いて教育と労働の関係、古今東西の労働観、また増加するニート、フリーターについての理解を深める。また自己分析して自分自身の労働観を考える。さらに労働市場、賃金、労働時間の概念を学ぶと共に、育児、介護、生活と仕事のバランスある生き方をどのようにして達成するかを自ら考える。

到達目標

人生において労働は大きな位置を占める。多くの労働観、労働の実情、制度等を理解すると共に、自己分析して、自分自身の労働観を確立し、キャリアについて意識できるようにする。

教材

教科書(テキスト)

テキストは用いないが、必要に応じて資料を配布する。

テキスト以外

人生に関する本を読もう。新聞を読もう。日々のニュースとあなたの人生の接点を考えよう。

評価方法

試験70%、小レポート20%、授業態度10%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

どのように生きるかは、誰にとっても人生の重要テーマだ。そして働くことは、生きることと全くイコールではないが、その多くの部分を占める。本学では、基本の教育理念に夢の実現を挙げている。夢は多くの場合、働く向こう、先にある。働くことを共に考えてみよう。より充実した人生のために。

授業計画

- 1 導入 ・授業目的 ・講義方針 ・講義計画
  - 1) 大学の収支と教育費
- 2 ・保護者にとっての学費 ・生涯の教育費の総額
- 3 2) 法律に規定されている教育の目的、目標と労働
- 4 3) 労働観 ・人はなぜ働くのか ・古今東西の労働観
- 5 ・わが国の労働観 ・産業構造の変化と労働観
- 6 4) ニートについて考える ・定義 ・増加要因 ・問題点 ・評価 ・対応
- 7 5) フリーターについて考える ・定義 ・類型 ・課題 ・評価 ・対応
- 8 6) 産業と職業 7) 縦断的働き方
- 9 8) 自己分析をしよう ・短所、長所 ・本当にしたいこと、適していること等
- 10 9) 5W1Hで自分の労働観を考えよう
- 11 10) 労働市場 ・職業、仕事との出会いの場
- 12 11) 賃金 ・定義 ・類型 ・決定理論 ・最低賃金制 ・現状と課題
- 13 12) 労働時間 ・概念と法規程 ・現状と課題
- 14 13) 育児、介護と仕事、生活と仕事のバランス
- 15 14) これからの労務管理と働き方 ・まとめとメッセージ

教養科目 シラバス

100049			
科目名	ヒトと科学	年次配当	1年次
担当者	野津伸治・尾崎せい子・森本直知	開講時期	後期
所属	生活学科・非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	5名

<b>授業概要</b>	
ヒトが存在する自然を科学的視点からとらえ、ヒトがどのように影響を受けたり・与えたり（関係）してきたのかを考える。	
<b>到達目標</b>	
ヒトと自然との関わりの中に潜む法則や自然科学的な論理の展開に関心を持ち、理解できること。	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) なし	テキスト以外 資料・スライド等を利用する
<b>評価方法</b>	
小テスト（3回）100%	
<b>学生に対するメッセージ（準備学習等）</b>	
自分の身の回りの自然現象を科学的視点から説明するので、関心をもって臨んでほしい。また、3人の講師が担当の第1回目に基礎的な事柄を説明するので、高校生の時に学習の機会がなかったものも要点を理解するようにしてほしい。	

<b>授業計画</b>	
1 自然科学の概要、セル・オートマトン	野津 伸治
2 ニューラル・ネットワーク	野津 伸治
3 進化計算	野津 伸治
4 ウェットウェア	野津 伸治
5 人工生命、小テスト（#1／3）	野津 伸治
6 地球科学の基礎	森本 直知
7 ヒトと環境科学～地球環境問題～	森本 直知
8 地球温暖化	森本 直知
9 中海・宍道湖の環境問題	森本 直知
10 大山と三瓶の自然、小テスト（#2／3）	森本 直知
11 力学の基礎	尾崎 せい子
12 光環境～照明と色彩～	尾崎 せい子
13 温熱環境～体感温度～	尾崎 せい子
14 空気環境～シックハウス症候群～	尾崎 せい子
15 都市環境～ヒートアイランド現象～、小テスト（#3／3）	尾崎 せい子

教養科目 シラバス

100050			
科目名	山陰論	年次配当	1年次
担当者	荒井 優 他	開講時期	後 期
所 属	国際文化交流学科 他	資格選択区分	
授業形態	講義		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

山陰地方の特徴と、それを構成する自然・社会・文化環境、人間が編成するさまざまな舞台や場面を取り上げ、「山陰」について複数の講師が多角的に論じる。前半は山陰地方の成り立ちとその変遷、地域が抱える諸問題について検討する。後半は山陰地方の個性ある歴史、文化、伝統的な営みについて紹介する。

到達目標

山陰地方の自然、産業と経済、歴史と文化、社会と人々の生活などについて理解を深めるとともに、地域社会の一員として、地域のあり方や発展について自分の考えや意見を表明できるようになる。

教材

教科書(テキスト)  
指定しない

テキスト以外  
時にレジュメを配布する  
参考文献は授業中に紹介する

評価方法

提出物100% (ただし出席状況が前提)

学生に対するメッセージ (準備学習等)

私たちが生活している山陰、郷土のさまざまなことさらに目を向け、関心を持ち、理解し、元気でより良い地域を作るためにはどうしたらよいか、この授業を通して考えてみよう。できれば事前に、自分の住んでいる市町村について、沿革、人口などの基本データ、特産物などを調べておこう。

授業計画

1	授業の紹介、山陰論 序論 神々のふるさと～人々の暮らしと宗教～	荒井 優
2	山陰の自然・風土	新名阿津子*
3	山陰の農林水産業	野津和功
4	山陰の経済と地域の発展	野津和功
5	輝ける古代山陰の歴史	根鈴輝雄*
6	開けゆく山陰の近代	未定*
7	山陰の生活文化～食文化～	松島文子
8	山陰の生活文化～住まい～	未定
9	山陰の工芸	田上重雄
10	山陰の方言	岡野幸夫
11	山陰の福祉	山田修平
12	山陰の教育～鳥取県教育のめざすところと課題～	中永廣樹*
13	山陰にみる日本の心	小泉凡*
14	山陰の現代の語部～倉吉の歴史講談「里見八犬伝」「淀屋」～	脇坂幸司*・荒井
15	地域づくりと若者の役割	福井功*・荒井
	(講師の都合などで変更もありうる)	*は特別講師